

1995年9月30日[土]—12月24日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL.03-5450-9581

雪の部落 1978年

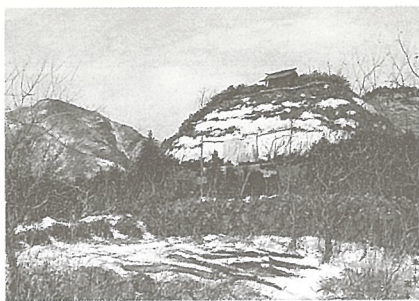
向井潤吉 秋と冬の彩 そして生活



向井潤吉

秋と冬の彩

そして生活



山居立春(神奈川県足柄上郡山北町世附) 1975年



叢林秋日(埼玉県大黒郡川本町) 1977年



宿雪の峽(長野県下水内郡栄村・秋山郡) 1983年



峠の下の村(岡山県苫田郡上斎原村天王) 1978年

向井潤吉先生が日本各地に取材し制作された、“民家作品”の数々は、歳月を経るにつれ、その姿を消し去っていく草屋根の民家が、重要なモチーフとなっています。

向井先生は草屋根の民家を日本の原風景の象徴としてとらえ、その民家こそが、人間と自然を結ぶ、非常に重要な接点であることを、絵画という表現において実証していると言えます。

人々の生活の拠点となっていた民家は、それぞれの地方特有の気候と産業、そして長い年月の中で培われてきた生活習慣などの必然から、その構造や形状をさまざまに変化させながら、住まいとしての機能を果たしてきました。

こうした自然と日々の生活の密接な関係の上に成り立っていた民家は、一見何ら変哲もないように見え、かつてはどこにでも点在し、そしてあたりまえのように集落をなしていましたが、戦後著しく進行した生活様式と産業の構造的な変革で、急速にその姿を消しました。

こうした今日においても、向井潤吉先生が制作されてきた数多くの“民家作品”は、見る者に多彩な季節感を抱かせ、同時に、民家のひとつひとつが周辺の自然と融合しながら、その存在が大地に根ざした確固たるものであったことを雄弁に物語っています。

このたびの展覧会では、木々が鮮やかに紅葉し、さまざまな彩りを添える秋、そして落葉と雪化粧をする冬景色をモチーフとした、季節感豊かな“民家作品”の数々をご紹介しますと同時に、働く人々の姿を生々しくとらえ、生活感を色濃く感じさせる素描作品をご紹介します。



不詳(食事風景) 1955年頃



不詳(老人) 1955年頃

●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分
- 東急バス (渋05) 渋谷～荏荏堂営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス (渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館
向井潤吉アトリエ館
 〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
 TEL03-5450-9581

